

栃木県わがまち未来創造事業実績書(市町総括表)
 【**単独**・連携事業】

| | |
|-----|-----|
| 市町名 | 下野市 |
|-----|-----|

(単位:円)

| No. | 単位事業名 | | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 | 合計 |
|-----|-----------------------------------|---------|------------|--------|--------|--------|--------|------------|
| 1 | しもつけ市民芸術文化祭 | 総事業費 | 1,129,212 | | | | | 1,129,212 |
| | | うち市町支出額 | 884,167 | | | | | 884,167 |
| | | うち県交付金 | 442,083 | | | | | 442,083 |
| 2 | 下野市産業祭開催事業 | 総事業費 | 2,875,612 | | | | | 2,875,612 |
| | | うち市町支出額 | 2,575,475 | | | | | 2,575,475 |
| | | うち県交付金 | 1,000,000 | | | | | 1,000,000 |
| 3 | いしばし納涼踊り花火大会開催事業 | 総事業費 | 4,463,595 | | | | | 4,463,595 |
| | | うち市町支出額 | 1,467,000 | | | | | 1,467,000 |
| | | うち県交付金 | 733,500 | | | | | 733,500 |
| 4 | 石橋商工会賑わい祭開催事業 | 総事業費 | 1,537,069 | | | | | 1,537,069 |
| | | うち市町支出額 | 228,000 | | | | | 228,000 |
| | | うち県交付金 | 114,000 | | | | | 114,000 |
| 5 | しもつけお笑いグランプリ開催事業 | 総事業費 | 543,614 | | | | | 543,614 |
| | | うち市町支出額 | 181,000 | | | | | 181,000 |
| | | うち県交付金 | 90,500 | | | | | 90,500 |
| 6 | 下野市商工会青年部夏まつり開催事業 | 総事業費 | 641,576 | | | | | 641,576 |
| | | うち市町支出額 | 213,000 | | | | | 213,000 |
| | | うち県交付金 | 106,500 | | | | | 106,500 |
| 7 | 絶滅危惧種トウサワトラノオ保護事業～保護から生まれる地域未来創造～ | 総事業費 | 300,000 | | | | | 300,000 |
| | | うち市町支出額 | 300,000 | | | | | 300,000 |
| | | うち県交付金 | 105,000 | | | | | 105,000 |
| 8 | | 総事業費 | | | | | | 0 |
| | | うち市町支出額 | | | | | | 0 |
| | | うち県交付金 | | | | | | 0 |
| 9 | | 総事業費 | | | | | | 0 |
| | | うち市町支出額 | | | | | | 0 |
| | | うち県交付金 | | | | | | 0 |
| 10 | | 総事業費 | | | | | | 0 |
| | | うち市町支出額 | | | | | | 0 |
| | | うち県交付金 | | | | | | 0 |
| 市町計 | | 総事業費 | 11,490,678 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11,490,678 |
| | | うち市町支出額 | 5,848,642 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,848,642 |
| | | うち県交付金 | 2,591,583 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,591,583 |

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

| | |
|---------------------|--|
| 市町名 | 下野市 |
| 事業名 | しもつけ市民芸術文化祭 |
| 事業主体の名称 | しもつけ市民芸術文化祭実行委員会 |
| 代表者の名称 | 会長 中川 賢一 |
| 事業主体の所在 | 〒329-0492 下野市笹原26(下野市生涯学習文化課内) |
| 事業主体の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 団体の目的:しもつけ市民芸術文化祭の開催事業の具体的な推進を図る。 設立年月日:平成18年7月4日 構成員等:下野市文化協会役員及び一般公募委員 |
| 当該事業に係る地域の現状と課題 | <p>下野市は、平成18年に南河内町、石橋町、国分寺町が合併してできた市であるが、合併に際し、それまで各町で行われてきた芸術文化振興の流れを汲み、合併後、市のメインテーマとして「思いやりと交流で創る新生文化都市」を掲げ、日頃から市民を対象とした様々な公民館講座を開催したり、小中学校でも芸術文化活動に力を入れてきた。また、合併当初から毎年「しもつけ市民芸術文化祭」を開催し、公民館講座や小中学生の学習の成果発表の場として、芸術文化に親しむ市民の意欲向上に寄与してきた。</p> <p>しかし、近年、文化協会会員の高齢化や会員数の減少に伴い、文化祭参加者も減少傾向にある。会員数の減少は、市民の趣味嗜好の多様化や旧3町の会場持ち回り開催などにより会場が遠方になってしまう方々がいるのも起因しているものと考えられる。文化祭は3町の融和のシンボリックな行事でもあることから、いかにして会員数や参加者を増やし、市民の一体感を醸成していくかが課題となっている。</p> |
| 事業目的 | <ul style="list-style-type: none"> 芸術文化活動に参加する市民を増やす。 市民の創作意欲の高揚を喚起する。 芸術文化の面から市民の交流を図り、ふるさと意識の高揚と一体感を醸成を図る。 「芸術文化活動が盛んな市」として、移住定住を促進する。 多様化する文化芸術団体の成果発表の場となる。 |
| 事業概要 | <p>【平成28年度】</p> <p>○しもつけ市民芸術文化祭の開催(平成28年10月15日(土)～30日(日))</p> <p>①芸能の祭典Ⅰ・Ⅱ…市民が日頃活動している各教室の成果披露(吟詠、ダンス、邦楽、洋楽、郷土芸能、民謡、舞踊、剣詩舞)</p> <p>②歌の祭典…市民が日頃活動している各教室等の成果披露(歌謡)</p> <p>③音楽の祭典…市民が日頃活動している各グループ等の成果披露(ロック、フォーク等) 南河内公民館で開催(※)</p> <p>④グリム・ミュージックフェア…市民が日頃活動している各教室等の成果披露(コーラス、吹奏楽、管弦楽等) 石橋・グリムの館で開催</p> <p>⑤書道展…市民が日頃から制作している作品の展示(書道作品)</p> <p>⑥茶華道展…市民が日頃活動している教室等の成果披露(お茶のお点前、活け花の展示)</p> <p>⑦市民の作品展…市民が日頃から制作している作品の展示(絵画、版画、手工芸品等の作品)</p> <p>※10/23(日)は下野市産業祭と同時・同会場で開催することで、産業祭への来客が文化祭も併せて楽しめるよう工夫した。</p> <p>その他、南河内会場、国分寺会場、石橋会場にスタンブラリーを設定し、最終日に商品の当たる抽選会を行うことで3会場の周遊性を高めた。</p> <p>・高齢化に対応する(高齢者の興味を引く)ため、骨密度測定など健康増進コーナーを設置した。</p> <p>※持ち回り開催により会場が遠のいた人にも来てもらうため、今年度から、メイン会場の南河内体育センターのほか、構成各地区に会場を設けた。</p> <p>(また、各種発表の場のほか、10/15の開会式を国分寺公民館で、10/30の閉会式をグリムの館(石橋)で開催した。)</p> <p>【平成29年度】</p> <p>・来場者アンケート結果を参考に、内容の見直しを図るとともに、市民参加型のワークショップ(体験講座等)を各種開催予定。</p> <p>・子どもの活動や作品が発表されることで地域への愛着を醸成するとともに、親世代の文化芸術への関心を高め、幸福感を感じることで定住意識を促進していく。</p> <p>・集客力を強化し認知度を高めることで、出演料・出展料の割合を増やし、自立的な運営を目指していく。</p> |
| 事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI | <p>基本目標②東京圏からの新しいひとの流れをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>転入者数 H26 2,319人 → H31 2,550人</p> <p>基本目標④安心なくらしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>幸せだと感じている市民の割合:H26 75%→H31 78%</p> <p>住みやすいと感じる市民の割合:H26 84%→H31 87%</p> <p>【KPI】</p> <p>小中学校の教育の取組の満足度:H26 4→H31 5</p> <p>講座・講演会の年間受講者数:H26 8,242人→H31 8,700人</p> <p>公民館の利用者数:H26 14万7千人→H31 15万6千人</p> |

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

| 事業内容 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 支援期間の事業費計 | 31年度 |
|--|-----------|------|------|-----------|------|
| ①芸能の祭典Ⅰ・Ⅱ ②歌の祭典 ③音楽の祭典 ④グリム・ミュージックフェア ⑤書道展 ⑥茶華道展 ⑦市民の作品展 | | | | | |
| 事業費 | 1,129,212 | | | 1,129,212 | |
| 市町支出金(ソフト事業分) | 884,167 | | | 884,167 | |
| うち県交付金 | 442,083 | | | 442,083 | |
| 市町支出金(ハード事業分) | 0 | | | 0 | |
| うち県交付金 | 0 | | | 0 | |
| その他自主財源等 | 245,045 | 0 | 0 | 245,045 | 0 |

市町担当情報

| | |
|--------------|--|
| 担当課(グループ・係)名 | 生涯学習文化課 文化振興グループ |
| 担当者名 | 川嶋恵美子 |
| 電話 | 0285-32-8919 |
| 連絡先 FAX | 0285-32-8610 |
| E-mail | svougai@akusyuubunka@city.shimotsuke.lg.jp |

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

| | |
|---------------------|---|
| 市町名 | 下野市 |
| 事業名 | 下野市産業祭開催事業 |
| 事業主体の名称 | 下野市産業祭実行委員会 |
| 代表者の名称 | 会長 高德 吉男 |
| 事業主体の所在 | 〒329-0492 下野市笹原26番地 |
| 事業主体の概要 | <p>団体の目的:市民の産業への関心を喚起し、本市における産業を通じた市民、観光客その他の交流及びその発展に寄与する ・設立年月日:ふれあいプラザ実行委員会(平成23年9月1日設立)下野市産業祭実行委員会へ名称変更(平成25年8月12日) ・構成員等:産業振興部長、農政課長、商業関係団体の代表者、工業関係団体の代表者、農業関係団体の代表者、観光関係団体の代表者、その他必要な関係団体の代表者</p> |
| 当該事業に係る地域の現状と課題 | <p>下野市(平成18年に旧南河内町、旧石橋町、旧国分寺町の3町が対等合併して誕生)では、古くは日光街道が、現在ではJR宇都宮線、国道4号、新4号国道が南北に縦断している交通の利便性を活用し商工業が発展してきた。また、首都圏に近い立地条件を生かした都市近郊農業が盛んで、特に、本市の特産品でもあるかんぴょうの生産量は全国一を誇っており、近年、地域の特性を活かした銘柄を創出するブランド化を推進しているところである。</p> <p>これらの産業振興を図るべく、合併以前から旧石橋町では、「ふれあいプラザ」として地場産品のPRや販売、展示などを行ってきたが、合併後、平成23年からは旧南河内町や旧国分寺町の商工業者も含めて「ふれあいプラザ」を開催、平成25年からは名称を「産業祭」に変更し、地域産業のPRや認知度向上、下野ブランドの定着を図ってきたところ、市内での認知度は高まってきている。</p> <p>しかし、(旧石橋町で開催していた事業であり、会場も石橋地区であることから)石橋地区以外の出展が少ない、出展者の固定化が進んでいる、高齢化や後継者不足で出展者が減少しているなどの問題があり、今後いかにして市内全域からの出展や新規出展を増やし、下野ブランドを育成していく後継者を確保しながら、市民自らのプロモーション力を向上させていくかが課題となっている。</p> |
| 事業目的 | <p>下野ブランドをはじめ、下野市の魅力を市内外にPRし、産業を活性化させる。 ・市内全域からの出展や新規出展を増やし、下野ブランド育成の後継者を確保する。 ・市民の郷土愛、一体感を醸成する。 ・商工業者を中心とした市民自らがシティブロモーションを行う。</p> |
| 事業概要 | <p>これまで会場は旧石橋町の大松山運動公園だったが、南河内公民館駐車場に変更し、旧南河内町や旧国分寺町を中心に新たな商工業者が出展しやすくなった。 【平成28年度】 ◎産業祭の開催10月23日(日曜日) ※しもつけ市民芸術文化祭と同日開催 来場者7,000人 73店出展 ・商工業者の出展: 商工会員を中心に自社製品や取扱商品等のPR・展示・販売 ・各工業団地による出展: 各企業の製品・商品の展示・販売やパネル等による製造工程説明 ・食と農の情報発信: 市内で生産されるかんぴょうなどの特産品を陳列・販売 ・公共性のある団体による出展等: 観光協会や各種団体によるポスター等の展示 ・食品を中心とした下野ブランド認定品の販売 ・ステージにおいては市内幼稚園児による発表 (ステージ総合司会:地元出身の永井壘及びしもサタパーソナリティ) ・市関係課のブースによる施策のPRやパーソナルロボット「Pepper」を活用したプロモーション ・技能検定合格者表彰 国家試験である技能検定(うち特級・1級・単一級)の合格者について、これまで単独で表彰式を行っていたが、能力向上の意識啓発促進と産業振興を踏まえ産業祭で実施した。 ○誘客 市広報、チラシ12,000枚を小中学校、幼稚園、保育園、公共施設、出展する事業所に配布するほか、ポスター150枚を市内公共機関、JR小金井駅、自治医大駅、石橋駅、道の駅しもつけ、市内スーパー及び商店に掲示。</p> <p>【平成29年度以降】 より産業振興に資するイベントとなるようリニューアルしながら実施する。</p> |
| 事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI | <p>【基本目標】②東京圏からの新しいひとの流れをつくる 【数値目標】転入者数:H26 2,319人→H31 2,550人 【KPI】 企業交流会・講習会の開催回数:H26 年1回→H31 毎年開催 事業所数:H26 113→H31 120事業所 地産地消応援認定数:H26 47→H31 60事業所 下野ブランド認定件数:H26 24→H31 40件 パーソナルロボットイベント参加回数:H26 - →H31 延50回以上</p> |

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

| | 28年度 | | | 支援期間の 事業費計 | |
|--|-----------|---|---|---------------|---|
| 事業内容 | | | | | |
| 第5回下野市産業祭開催 ・商工業者、公共団体の 出展 ・食と農の情報発信 ・下野ブランドPR | | | | | |
| 事業費 | 2,875,612 | | | 2,875,612 | |
| 市町支出金 (ソフト事業分) | 2,575,475 | | | 2,575,475 | |
| うち県交付金 | 1,000,000 | | | 1,000,000 | |
| 市町支出金 (ハード事業分) | 0 | | | 0 | |
| うち県交付金 | 0 | | | 0 | |
| その他自主財源等 | 300,137 | 0 | 0 | 300,137 | 0 |

市町担当情報

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 担当課(グループ・係)名 | 商工観光課 商工業・労働グループ |
| 担当者名 | 神戸 良和 |
| 電話 | 0285-32-8907 |
| FAX | 0285-32-8611 |
| E-mail | svoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp |

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

| | |
|---------------------|---|
| 市町名 | 下野市 |
| 事業名 | いしばし納涼踊り花火大会開催事業 |
| 事業主体の名称 | いしばし納涼踊り花火大会実行委員会 |
| 代表者の名称 | 実行委員長 高山 忠則 |
| 事業主体の所在 | 〒329-0511 下野市石橋790-17 |
| 事業主体の概要 | <p>・団体の目的: 踊り花火を通じ地域住民の連帯感をほぐし、明るく住みよいまちづくりを図る。</p> <p>・設立年月日: 昭和48年</p> <p>・構成員等: 石橋商工会役員・理事、下野市、電気工事組合、建友会、音頭おはやし会、下野市立工場連絡協議会、石橋中学校PTA連絡会、自治会連絡協議会、警察、消防</p> |
| 当該事業に係る地域の現状と課題 | <p>下野市・石橋地区には、JR石橋駅を中心とした昔からの商店街や住宅地があるが、高齢化の進展とともに閉店する商店が増え、空き店舗の増加や用途変更による駐車場利用など、市街地の空洞化が進んでいる。</p> <p>その一方で、地域の祭りとして昭和48年から続く「いしばし納涼踊り花火大会」は、地域住民の交流を促進し、業種を超えた交流や情報交換の場として機能するほか、近年誕生した新興住宅地と従来の住宅地の新旧住民や世代を超えた人々の交流の場としても重要な役割を担うなど、空洞化が進む街においても、地域コミュニティを維持することに貢献してきた。また、平成18年の旧国分寺町、旧南河内町との合併後は、下野市を代表するお祭りの1つとして市内外より多くの人が訪れる行事となっている。しかし、お祭りの中心となって活動してきた商工業者も高齢化が進み、後継者不足により廃業となるなど、将来的な祭りの担い手の不足が懸念されている。地域住民の交流を促し、絆を深めてきた祭りの衰退は、地域の活力低下やさらなる若者の流出につながりかねない。いかにして石橋地区への訪問者を増やし、地域の良さを知り将来的に住み続けたい街として実感してもらうかが課題となっている。</p> |
| 事業目的 | <p>・住民自らが地域を盛り立てていく。</p> <p>・子どもの郷土愛を醸成する。</p> <p>・地域の連帯感を育む。</p> <p>・下野市(石橋地区)を訪れるきっかけをつくり、地域の良さを知ってもらい将来的な移住・定住候補地として考えてもらう。</p> |
| 事業概要 | <p>【平成28年度】</p> <p>○盆踊り花火大会の開催(8月6日土曜日) ※夏休み時期の開催により、帰省者のUターン促進 来場者 4,500人</p> <p>・地元のおはやし団体による音頭おはやし演奏(12名)</p> <p>・盆踊り・・・地域団体、スポーツ少年団、PTA、立地企業等がグループで盆踊りを披露し、審査・表彰した。</p> <p>参加団体 26団体、592名</p> <p>・花火・・・1,100発・屋台・・・27店舗。今年度は、地域の商店の出店を促進させ、地域の連帯感を一層高めた。</p> <p>○事前PR</p> <p>・新聞(下野・読売・毎日・朝日)折込、商工会員事業所・実行委員(市・PTA・自治会)の関連施設へのポスター掲示、ホームページやタウン情報誌(もんみや)への掲載のほか、SNS(青年部を中心としたツイッター)を開設し、広くPRを行った。</p> <p>【平成29年度以降】</p> <p>より郷土愛や連帯感を育むためのイベントとなるようリニューアルしながら実施する。</p> |
| 事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI | <p>【基本目標】②東京圏からの新しいひとの流れをつくる ④安心な暮らしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>幸せだと感じている市民の割合: H26 75%→H31 78%</p> <p>住みやすいと感じる市民の割合: H26 84%→H31 87%</p> <p>観光入込客数: H26 252万人→H31 277万人</p> <p>転入者数: H26 2,319人→H31 2,550人</p> |

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位: 円)

| | 28年度 | | | 支援期間の 事業費計 | |
|-------------------|-----------------|---|---|---------------|---|
| 事業内容 | ・盆踊り大会 ・花火大会 | | | | |
| 事業費 | 4,463,595 | | | 4,463,595 | |
| 市町支出金 (ソフト事業分) | 1,467,000 | | | 1,467,000 | |
| うち県交付金 | 733,500 | | | 733,500 | |
| 市町支出金 (ハード事業分) | 0 | | | 0 | |
| うち県交付金 | 0 | | | 0 | |
| その他自主財源等 | 2,996,595 | 0 | 0 | 2,996,595 | 0 |

市町担当情報

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 担当課(グループ・係)名 | 商工観光課 商工業・労働グループ |
| 担当者名 | 神戸 良和 |
| 電話 | 0285-32-8907 |
| 連絡先 FAX | 0285-32-8611 |
| E-mail | syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp |

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

| | |
|---------------------|--|
| 市町名 | 下野市 |
| 事業名 | 石橋商工会賑わい祭開催事業 |
| 事業主体の名称 | 石橋商工会 |
| 代表者の名称 | 会長 高山 忠則 |
| 事業主体の所在 | 〒329-0511 下野市石橋790-17 |
| 事業主体の概要 | <p>・団体の目的:地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資し、もって国民経済の健全な発展に寄与する。</p> <p>・設立年月日:昭和35年9月16日</p> <p>・構成員等:本商工会の地区内において、引き続き6月以上 営業所、事務所工場又は事業場を有する商工業者</p> |
| 当該事業に係る地域の現状と課題 | <p>石橋駅前商店街は、かつての宿場町で、馬市がおかれ、戦後も家畜市場やかんぴょう問屋のある賑やかな商店街であったが、高齢化やモータリゼーションに伴い、空き店舗の増加や用途変更による駐車場利用など、市街地の空洞化が進んでいる。また、昭和35年から、住民の交流の場や各店舗の商品PRの場として「賑わい祭り」が開催されてきたが、後継者不足などから出展者の減少傾向が続いていた。</p> <p>商店街の活性化に寄与してきた「賑わい祭り」の衰退は、商店街、さらには石橋地域の商工業の衰退につながりかねないと、平成27年には、商店街に代わり商工会が主体となって、商店街のみでなく広く石橋地域の商工業者に参加を呼びかけ、9月に賑わい祭り、10月に駅前の商店を中心とした軽トラ市を開催したところ、約2,000名の来場があるなど、それまでを上回る賑わいを見せた。</p> <p>しかし、会場が路上であることから交通上の問題やトイレの制約などもあること、さらに出展者の減少という問題は解決していないことから、いかにしてこれらの問題を解消しつつ、商工会の後継者を確保して駅前商店街の賑わいを創出していかかが課題となっている。</p> |
| 事業目的 | <p>・駅前商店街の賑わいを取り戻す。</p> <p>・商工会の後継者を増やす。</p> <p>・消費者、生産者、販売者の交流を促す。</p> <p>・石橋駅前商店街を訪れ、地域の良さを知ってもらい、将来的に移住・定住、商工会メンバーになってもらう。</p> |
| 事業概要 | <p>【平成28年度】</p> <p>◎賑わい祭の開催(10月16日 日曜日) 於:石町通り(市道2251号線)大松山ピクニック広場 来場者 4,500人</p> <p>・軽トラ市・・・地域の特産品やローカルフードを中心に34店舗による農産物、加工品、商工業用品等の販売</p> <p>・ヒーローショーや市民グループによるパフォーマンス実施</p> <p>・ホットドック早食い競争や大金魚すくい開催</p> <p>※賑わい祭と軽トラ市を発展的にすることで誘客するとともに、出展者間の交流を促進した。</p> <p>※会場を石橋駅に隣接する道路で開催し、車両通行止めにより、来場者の安全を確保するとともに、周辺の店舗等の駐車場を借り上げることで、市民が参加しやすく、また、電車を利用し来場しやすい環境づくりを図り、パフォーマンスの発表や子供も楽しめるイベントを盛り込んだ。(今年度はイベントの問題解決の注力する)</p> <p>○誘客</p> <p>祭り出店者や商工会員店舗、下野・読売・毎日・朝日新聞への折込でチラシを配布するとともにホームページに掲載し広くPRを行った</p> <p>【平成29年度】</p> <p>より地域の活性化や商業振興に資するイベントになるようリニューアルしながら実施する。</p> |
| 事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI | <p>【基本目標】①魅力的で安定した雇用を創出する ②東京圏からの新しいひとの流れをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>観光入込客数:H26 252万人→H31 277万人</p> <p>【KPI】</p> <p>制度融資新規活用件数:H26 177件→H31 200件</p> <p>駅前広場事業実施箇所数:H26 2箇所→H31 5箇所</p> <p>空き店舗奨励金等活用件数:H26 2→H31 延15件</p> |

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

| | 28年度 | | | 支援期間の 事業費計 | |
|-------------------|---|---|---|---------------|---|
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・農産物、加工品、商工業用品の販売 ・ヒーローショーや市民グループによるパフォーマンス ・ビンゴゲームやじゃんけん大会 | | | | |
| 事業費 | 1,537,069 | | | 1,537,069 | |
| 市町支出金 (ソフト事業分) | 228,000 | | | 228,000 | |
| うち県交付金 | 114,000 | | | 114,000 | |
| 市町支出金 (ハード事業分) | 0 | | | 0 | |
| うち県交付金 | 0 | | | 0 | |
| その他自主財源等 | 1,309,069 | 0 | 0 | 1,309,069 | 0 |

市町担当情報

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| 担当課(クラブ・係)名 | 商工観光課 商工業・労働グループ |
| 担当者名 | 神戸 良和 |
| 電話 | 0285-32-8907 |
| 連絡先 FAX | 0285-32-8611 |
| E-mail | syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp |

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

| | |
|---------------------|--|
| 市町名 | 下野市 |
| 事業名 | しもつけお笑いグランプリ開催事業 |
| 事業主体の名称 | しもつけお笑いグランプリ実行委員会 |
| 代表者の名称 | 実行委員長 稲葉 伸行 |
| 事業主体の所在 | 〒329-0511 下野市石橋790-17 |
| 事業主体の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的: 石橋商工会青年部を中心とした若者たちによる地域の活性化や笑いによる幸福度アップを図る。 ・設立年月日: イブニングライズ実行委員会(平成元年設立)、しもつけお笑いグランプリ実行委員会に名称変更(平成26年度) ・構成員等: 石橋商工会青年部員及び地域の有志 |
| 当該事業に係る地域の現状と課題 | <p>下野市・石橋地区には、JR石橋駅を中心とした昔からの商店街や住宅地があるが、高齢化の進展とともに閉店する商店が増え、空き店舗の増加や用途変更による駐車場利用など、市街地の空洞化が進んでいる。</p> <p>商工会等が中心となって様々な活性化の取組を行っているが、各取組は摸索・実行段階にあり、まだ明確な成果が出ているわけではない。そこで、平成元年、数少ない商工会の後継者が集まり、若手のアイデアで活性化に貢献しようと、イブニングライズ実行委員会を設立し、コンサート中心のイベントを開催してきたが、近年では事業がマンネリ化し、来場者が減少してきたことに伴い事業規模も縮小していた。</p> <p>そのため、平成26年に、事業のあり方を見直し、地域の活性化には「笑い」が必要だと「お笑いグランプリ」を開催するとともに、近年下野市で力を入れている特産品を活かした「ご当地グルメ選手権」を開催したところ、久しぶりに来場者が増えた。しかし、まだ開催2年目ということで認知度は高くないこともあり、今後いかにして地域住民に愛される、石橋地区の資源にしていかが、また、これをきっかけに人を呼び込み商工会の後継者を増やしていくかが課題となっている。</p> |
| 事業目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・石橋地区の商工業を活性化させる。 ・商工会の後継者を増やす。 ・下野ブランドの魅力を市民自身が再確認し、誇れる街とする。 ・下野市(石橋地区)を訪れるきっかけをつくり、地域の良さを知ってもらい将来的な移住・定住候補地として考えてもらう。 |
| 事業概要 | <p>【平成28年度】</p> <p>○しもつけお笑いグランプリの開催(2月5日日曜日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25組のお笑い芸人のコンテストを審査し表彰した。 ・司会に下野市出身のものまね芸人永井壘を起用し、随所に「しもつけいじり」を交えながら、PRトークを行った。 <p>○下野市の食材をふんだんに使った食品の販売・・・地元産の食材や日本一の生産量を誇るかんぴよで作った「しもつけカンピラ」などの販売を行った。</p> <p>○事前PR</p> <p>新聞折り込みを下野新聞だけでなく、読売・朝日・毎日にも拡大していくとともに、ツイッターやフェイスブックなどのSNSを活用したPRを取り入れた。</p> <p>【平成29年度以降】</p> <p>将来的には出店料や入場料をとることで自主運営を検討していく。</p> |
| 事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI | <p>【基本目標】②東京圏からの新しいひとの流れをつくる ④安心な暮らしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>転入者数: H26 2,319人→H31 2,550人 観光入込客数: H26 252万人→H31 277万人 幸せだと感じている市民の割合: H26 75%→H31 78%</p> <p>【KPI】</p> <p>下野ブランド認定件数: H26 24件→H31 40件</p> |

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位: 円)

| | 28年度 | | | 支援期間の 事業費計 | |
|-------------------|---------|---|---|---------------|---|
| 事業内容 | | | | | |
| | | | | | |
| 事業費 | 543,614 | | | 543,614 | |
| 市町支出金 (ソフト事業分) | 181,000 | | | 181,000 | |
| うち県交付金 | 90,500 | | | 90,500 | |
| 市町支出金 (ハード事業分) | 0 | | | 0 | |
| うち県交付金 | 0 | | | 0 | |
| その他自主財源等 | 362,614 | 0 | 0 | 362,614 | 0 |

市町担当情報

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 担当課(グループ・係)名 | 商工観光課 商工業・労働グループ |
| 担当者名 | 神戸 良和 |
| 電話 | 0285-32-8907 |
| 連絡先 FAX | 0285-32-8611 |
| E-mail | syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp |

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

| | |
|---------------------|---|
| 市町名 | 下野市 |
| 事業名 | 下野市商工会青年部夏まつり開催事業 |
| 事業主体の名称 | 下野市商工会青年部 |
| 代表者の名称 | 部長 岡本 晃 |
| 事業主体の所在 | 〒329-0412 下野市柴897-10 |
| 事業主体の概要 | <p>・団体の目的:商工業の後継者たるべき青年の経営者としての資質を向上させ、商工業の総合的な改善発達を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資する</p> <p>・設立年月日:平成24年4月(南河内商工会、国分寺商工会の合併により設立)</p> <p>・構成員等:本商工会の会員たる商工業者(法人にあってはその役員)又はその親族であり、かつ、その会員の営む事業に従事する者であつて、年齢満45歳以下の者</p> |
| 当該事業に係る地域の現状と課題 | <p>下野市は平成18年に旧石橋町、旧南河内町、旧国分寺町が合併してできたが、商工会としては、平成24年に南河内町商工会と国分寺商工会が合併して下野市商工会となった。その際、旧各商工会の青年部(地域の商工業のこれからを担う若者たちの組織)同士、交流と一体感を深めた方がよいと、様々な取組をしてきたが、さらに各旧町の住民との交流も図るため、平成24年から下野市商工会青年部夏まつりを開催してきたところ、少しずつ交流が深まってきた。</p> <p>しかし、商工会青年部の人数は多くなく、今後さらに人口減少が進むと商工会青年部(商工会の後継者)の存続も危ぶまれる。そのため、いかにして商工会青年部と住民の交流を図りつつ、商工会の後継者を確保していくかが課題となっている。</p> |
| 事業目的 | <p>・地域に根ざした商工業を育成する。</p> <p>・住みたい地区として、移住定住候補地になる。</p> <p>・子どもの郷土愛を醸成し、将来的なUターン、定住意識を育てる。</p> |
| 事業概要 | <p>【平成28年度】</p> <p>今年度は会場を下野市役所新庁舎で行い、駐車場の確保や駅から2分の地の利を生かし他市町からの来場を図った。</p> <p>○夏まつりの開催(8月21日(日曜日)) ※夏休み時期の開催により、帰省者のUターン促進 来場者 400名</p> <p>小学生以下の子どもの対象にした参加体験型の催しを実施し、親子で気軽に参加できるイベント</p> <p>・ゲーム(射的、型抜き、スマートボール、ラッキーボール)</p> <p>・イベント(抽選会、愛泉童太鼓、ヒーローショー、ゆるキャラショー、カンピくんふわふわ)</p> <p>・模擬店(かき氷、焼きそば、ジュース、フランクフルト)</p> <p>・親子木工教室、クラフト体験</p> <p>○事前PR</p> <p>・ポスター20枚、チラシ4,000枚を市内小学校、幼稚園、保育園に配布するほか、HPやSNSを活用し、広く情報発信した。</p> <p>【平成29年度以降】</p> <p>売上げを伸ばし自立性を高めていく。</p> |
| 事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI | <p>【基本目標】②東京圏からの新しいひとの流れをつくる ④安心な暮らしを守り幸せを実感できるまちをつくる</p> <p>【数値目標】</p> <p>観光入込客数:H26 252万人→H31 277万人 転入者数:H26 2,319人→H31 2,550人</p> <p>幸せだと感じている市民の割合:H26 75%→H31 78% 住みやすいと感じる市民の割合:H26 84%→H31 87%</p> |

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

| | 28年度 | | | 支援期間の 事業費計 | |
|-------------------|---------|---|---|---------------|---|
| 事業内容 | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 事業費 | 641,576 | | | 641,576 | |
| 市町支出金 (ソフト事業分) | 213,000 | | | 213,000 | |
| うち県交付金 | 106,500 | | | 106,500 | |
| 市町支出金 (ハード事業分) | 0 | | | 0 | |
| うち県交付金 | 0 | | | 0 | |
| その他自主財源等 | 428,576 | 0 | 0 | 428,576 | 0 |

市町担当情報

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 担当課(グループ・係)名 | 商工観光課 商工業・労働グループ |
| 担当者名 | 神戸 良和 |
| 電話 | 0285-32-8907 |
| FAX | 0285-32-8611 |
| E-mail | syoukoukankou@city.shimotsuke.lg.jp |

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

| | |
|---------------------|---|
| 市町名 | 下野市 |
| 事業名 | 絶滅危惧種トウサワトラノオ保護事業 ～保護から生まれる地域未来創造～ |
| 事業主体の名称 | 下野市トウサワトラノオ保存会 |
| 代表者の名称 | 会長 黒川 英代 |
| 事業主体の所在 | 下野市東根 地内 |
| 事業主体の概要 | <p>・団体の目的：絶滅危惧種トウサワトラノオの保護及びPR活動を行う。</p> <p>・設立年月日：平成24年5月24日</p> <p>・構成員等：南河内土地改良区(江川・五千石地区整備委員会)、東根自治会、県立小山北桜高等学校、下野市自然に親しむ会、下野市農業振興事務所(整備部整備課)、下野市(農政課)</p> |
| 当該事業に係る地域の現状と課題 | <p>下野市には、絶滅危惧種「トウサワトラノオ」の群生地がある(※)。平成18年に50年ぶりに確認され、県が保全地を造成し管理を行っていたが、平成24年に管理が下野市に移ったことをきっかけに、下野市トウサワトラノオ保存会を設立し、以降、トウサワトラノオ保護のため、生育状況の調査や保全地の草刈り等の保護活動を行ってきた。また、これまで下野市は“通り道”であることが多く、なかなか“目的地”とは認識されることがなかったが、トウサワトラノオの群生地の誕生により観光客の増加が期待され、NHK等のマスコミを通してトウサワトラノオのPR活動を行ってきた。今年度はNHK放映の翌日には100人程度の来客があり、以降千葉県や遠くは四国から保全地を訪れる姿も見られた。</p> <p>しかし、群生地の規模が大きいため、その維持管理には手間がかかる上、国内でも2ヶ所しか見られない絶滅危惧種であるにも関わらず、トウサワトラノオの知名度は県内でも低く、観光に訪れる人は市民の一部もしくはマスコミ等で存在を知り得た県内外の視聴者のみである。そのため、今後いかにしてトウサワトラノオを保護しながら、トウサワトラノオを活用して地域に人を呼び込むかが課題となっている。</p> <p>※ 国内で自生しているのは栃木県と愛知県のみと言われる花で本県では絶滅したとされていた。良好な圃場を維持してきた地元の努力の結果であり、発見後は保全地を造成し人為的な保護活動を行い、現在これほどの大群落を保っているのは下野市のみ。</p> |
| 事業目的 | <p>・トウサワトラノオの生育環境を守る。</p> <p>・トウサワトラノオを活用して下野市に人を呼び込む。</p> <p>・下野市の魅力が詰まった「道の駅しもつけ」への来場者を増やし、物産品購入などで年間を通じて訪問してもらう。</p> |
| 事業概要 | <p>【平成28年度】 (トウサワトラノオの生育環境を守る) ○環境整備・・・草刈り年3回程度(開花後、梅雨明け後、秋の雑草繁茂後)、雑草対策年1回(灌漑期の5～8月・除草剤散布)、灌水管理(灌漑期の5～8月) (トウサワトラノオを活用して人を呼び込む) ○「花を見る会」の開催(開花後の保全会総会時、昼食と合わせて開催) ○トウサワトラノオにちなんだ商品開発・・・トウサワトラノオをPRするため、市内企業と連携し、商品(下野市ブランド菓子)の開発に向け試食やアンケート調査を実施した。 《将来にわたり保護する体制をつくる》 市内学生の学習機会の提供や自然保護活動の啓発への活用 ○トウサワトラノオの観察研究、調査結果発表(県立小山北桜高等学校、発表は下野市トウサワトラノオ保全会総会時) ○小山北桜高等学校・吉田西小学校の交流事業(小学校校庭内のピオトープ(小規模な生息空間)にトウサワトラノオ移植作業や高校生が講師となつての勉強会)</p> <p>【平成29年度】 上記の内容を継続的に行うほか、以下の取組を追加する。 ○地域を越えた保護・・・これまで唯一生息地とされてきた愛知県の豊川市(豊川宝飯地区)や蒲郡市との保護活動のための交流事業を行う。保全地を造成し、人為的な保護活動を行っているのは下野市だけであるため、そうしたノウハウを伝える。</p> <p>【平成30年度】 同上</p> |
| 事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI | <p>基本目標②東京圏からの新しいひとの流れをつくる 【数値目標】観光入込客数:H26 252万人→H31 277万人 【KPI】道の駅しもつけ利用者数:H26 260万人→H31 280万人 下野ブランド認定件数:H26 24件→H31 40件 市ホームページアクセス数:H26 110万件→H31 120万件</p> |

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

| 事業内容 | 28年度 | | | 支援期間の事業費計 | |
|--|---------|---------------|---------|---------------|--------|
| | 事業費 | 市町支出金(ソフト事業分) | うち県交付金 | 市町支出金(ハード事業分) | うち県交付金 |
| ①保全地周辺の環境整備 ②開花後の案内、見守り活動 ③観察会「花を見る会」の開催、研究発表 ④保全地の除草作業 ⑤保全活動のPR事業 | 300,000 | 300,000 | 105,000 | 0 | 0 |
| その他自主財源等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

市町担当情報

| | |
|--------------|------------------------------|
| 担当課(グループ・係)名 | 農政課 農村整備グループ |
| 担当者名 | 飯野 博之 |
| 電話 | 0285-32-8906 |
| FAX | 0285-32-8611 |
| E-mail | nousei@city.shimotsuke.lg.jp |